令和５年度　　国語科　授業改善推進プラン

台東区立東浅草小学校

	児童の状況及び実態を踏まえた課題	特に育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む 指導方法・指導体制の工夫
第一学年	・話を正しく最後まで聞くこと。 ・自分の思いや考えを適切な言葉で表現すること。 ・初見の文を読む際に、言葉のまとまりを見つけて正しく読むこと。 ・長音、拗音、発音を正しく書くこと。 ・助詞「は」「を」「へ」を正しく使うこと。	・話を正しく最後まで聞く力 ・自分の思いや考えを適切な言葉で表現する力 ・正しく読んだり、正しい表記で書いたりする力	・話したり聞いたりする際のポイントやルール、話型などを提示する。 ・国語の時間にスピーチをする場面を作る。また、友達と対話する機会を増やし、自分の思いや考えを伝え合うことができるようにする。 ・音読をする時間を設けるとともに、言語事項(長音、拗音、発音、助詞など)の指導を継続して取り組む。
第二学年	・漢字の小テストでは、ドリルで学習した後すぐは覚えているが、学期末の漢字のまとめのテストでは間違いが多いこと。 ・漢字をよく見て書きとることが苦手な児童は、漢字を正しく覚えることができず、日常的に漢字を使うことを苦手としていること。 ・かぎや句読点等を正しく使って文章を書くことや、主語を明らかにして文を書くこと、物事の様子を詳しく書くこと、自分の考えを書き表すこと。 ・話し手の伝えたいことを落とさずに聞くこと	・語句の量を増やし、語彙を豊かにする力 ・自分の考えを書き表す力 ・伝えたいことの順序を考えて話す力・聞く力	・読書の時間を設け、児童が多くの本を読む時間を作ることで、語彙を豊かにする。 ・カタカナや学習した漢字を使って文を書くことを意識させる。 ・体験を通して、自分の感じたことや思ったことを文に書いて表現させる。 ・順序に気をつけて説明文を書かせる。 ・図書館司書と連携して読み聞かせを行うとともに、様々なジャンルの本を紹介する。 ・朝の会や帰りの会の際に、児童の伝えたいことをテーマにスピーチをさせる。

第三学年	・話し手の伝えたいことを考えながら、最後まで集中して話を聞くこと。 ・相手に伝わりやすいように話題をまとめて、話すこと。 ・漢字の定着の差が大きい。 ・文章を書くことに抵抗がある児童が多い。	・話し手が伝えたいことと、自分が聞く必要のある内容と両面を意識しながら聞く力 ・身近なこと、様子や行動、気持ちを表す語句の量を増やし、必要に応じて使いこなす力 ・漢字を正しく覚え、日常的に活用する力 ・主語、述語、修飾語など、文の構成を理解し、筋道立てて考えや思いを表現する力	・朝の会や帰りの会の際に、児童の伝えたいことをテーマに日直の児童がスピーチをする機会を設ける。 ・ペアワークや小グループでの話し合い活動を多く取り入れ、自分の考えを表現したり、友達の話を聞いたりする場を増やす。 ・漢字を部首とつくりに分ける、部首の意味を考える、大きく書くなど、学習方法を紹介し、自分にあった覚え方を見付けられるようにする。 ・定着度を図るため、繰り返し小テストを行う。 ・体験を通して、自分の感じたことや思ったことを文章にしたり、伝えたいことの順序に気を付けて書いたりする。そのために日記の課題を週末に出す。
第四学年	・漢字を正しく読んだり、書いたりすること。 ・自分の意見や考えを分かりやすく書いたり、文章を要約したりすること。 ・自分と友達の考えを比べながら聞いたり、伝え合ったりすること。	・漢字の定着と、日常的に活用する力 ・伝えたいことが伝わるように、文章の構成を考えたり、要点をまとめたりして書く力 ・自分と友達の考えを比べて伝え合う力	・漢字練習やテストを繰り返し行うことで定着を図る。 ・構成メモやモデル文を活用し、組み立てを考えて書くことができるようにする。 ・伝え合う場面で、比べる視点を示す。
第五学年	・漢字を正しく書くこと。 ・物語の学習で、登場人物の心情や自分が思ったことを表現すること。 ・説明文の学習で、文章を正しく読み、内容を捉えること。	・漢字を正しく書く力 ・目的意識をもって文章を読み、筆者の考えを捉えたり、叙述からその場面を想像しながら読む力	・漢字の成り立ちや熟語の意味を捉えさせ、繰り返し取り組ませていく。 ・文章の構成を理解し、文章の要旨を読み取る活動を丁寧に行っていく。

第六学年	・漢字を正しく読んだり、書いたりすること。 ・話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。 ・自分の意見や考えを、理由・根拠を明確にして書くこと。	・国語を大切にし、主体的に学ぶ力 ・自分の思いや考えを話したり、書いたりする力	・短い時間（のびゆけの時間）を利用して、漢字テストを継続的に反復して行う。 ・自分の考えを書く時間、伝え合う時間を設け、相手に伝わったかを振り返る時間を取る。

令和５年度　　算数科　授業改善推進プラン

台東区立東浅草小学校

	児童の状況及び実態を踏まえた課題	特に育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む 指導方法・指導体制の工夫
第一学年	・文章を理解し、立式すること。（文章を理解できずに立式できない児童がおり、算数的課題だけではないつまずきが見られる。） ・学習したことを日常生活で生かそうとする態度が身についていないこと。 ・基礎的な計算問題はできるようになってきたが、応用問題になるとつまずくこと。	・問題を捉え、正しく立式する力 ・学習したことを日常生活で活用する力	・「あわせて」「ぜんぶで」「のこりは」「ちがいは」などのキーワードになる言葉に注目させ、演算決定できるようにする。 ・文章題で問われていることに下線を引かせ、意識できるようにする。 ・生活のなかで学習内容が生かせる場面を意図的に設定する。 ・適用問題や応用問題に繰り返し取り組む。 ・算数少人数担当と連携して個別指導をすすめる。

第二学年	・時計の読み方が不明瞭であったり、時刻と時間の概念理解が不十分であったりする。 ・文章問題の内容を正しく理解することに課題がある。 ・たし算やひき算の計算問題は、１年生の時に学習した２桁数―１桁数の計算に課題がある。 ・繰り上がりや繰り下がりの計算は、筆算の立式段階で数字を書く位置、計算の順番を正しく理解することに課題がある。 ・物差しの使い方やめもりの見方に課題がある。 ・単位の大きさの概念や関係性が分からずに、理解に課題がある。	・時計の読む力。 ・何を問われているのか理解する力。 ・既習事項を振り返りながら、新たな学習に生かせる力。	・起きている時刻や学校が始まる時刻などを「午前」「午後」を用いて表現させる声掛けを適宜行い、日常的に時計を読む機会を作る。 ・文章題で問われていることに下線を引かせ、意識をさせる。 ・授業の始めに既習事項を振り返る時間を取り入れる。
第三学年	・多くの児童が基礎的な計算力は定着しているが差がある。繰り上がりや繰り下がりの計算で指を使っている児童がいる。 ・九九の定着が不十分な児童がいる。かけ算のきまりについての理解が低いこと。 ・問題文から必要な情報を取り出し、立式すること。	・基礎的な計算力 ・問題文から求答事項を読み取り、正しく立式する力	・算数の学習の始めに計算貯金(既習内容の復習)の時間を設けることで、未習熟な内容の定着を図る。 ・間違いの多い繰り上がり、繰り下がりの問題練習を のびゆけの時間や家庭学習で定期的に行う。 ・問題文を読み取る際に、キーワードに線を引くなどの提示されている条件を整理する練習をし、整理したことから立式する練習を繰り返し行う。
第四学年	・問題の文章を正しく捉え、解決すること。 ・長さや重さの単位の換算が苦手な児童がいること。 ・発展的な問題で既習事項を活用して問題に取り組むことが難しい児童が多い。	・問題を正しく捉え立式する力 ・学んだことを積極的に生活に活用しようとする態度	・学習内容と日常生活の関連を図り、算数の関心を高めるとともに、数学的な処理のよさに気付くことができるようにする。

第五学年	・算数のコンパス等を正しく適切に使用すること。 ・図形の特徴を理解し、課題に合った視点でその図形を見ること。 ・式や図を用いて、自分の言葉で適切に表現すること。	・既習学習の定着 ・答えを導くまでの考え方の大切さを伝え、答えが出るまでの仕組みを理解する。	・４年生までの学習を復習する。特に苦手としている単元（角の大きさ・概数・割り算・掛け算）を重点的に行う。 ・複数の方法で答えを導き出せるよう、考えをまとめる時間を十分に確保する。
第六学年	・割合や文章問題の正答率が低い。 ・文章や式を用いて、立式の理由等を書くこと。（無解答率が高い）	・問題に粘り強く取り組む力 ・既習事項（割合・図形・計算の工夫など）基礎的・基本的な概念を理解する力 ・自分の考えを説明する力（記述式は無答率が高い）	・既習内容と日常生活との関連を図り、算数への関心を高めるとともに、数的処理のよさに気付くことができるようにする。 ・短い時間（のびゆけの時間）を利用して、定着していない事項に取り組み、定着を図る。 ・自力解決の時間を十分設定し、自分の考えを言葉で図や文章を使って表現し、説明する指導を行う。

令和５年度　　理科　授業改善推進プラン

台東区立東浅草小学校

	児童の状況及び実態を踏まえた課題	特に育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む 指導方法・指導体制の工夫
第四学年	・生活経験を基に、根拠のある仮説や予想を立てること。 ・実験結果や観察したことを基に自分の言葉で考察を書くこと。	・自らの経験を基に予想をたてたり、日常生活と関連付けて考えたりする力 ・自分の考えを表現する力	・身近なものを例示して、日常生活と関連付けるようにする。 ・観察、実験の結果をもとに、自分の考えを書き、妥当な結論から考察を導くことができるよう指導を行う。

第五学年	・理科に対して苦手意識をもっていること。 ・生活の中での不思議を学習と結び付け、理科の見方･考え方を働かせながら学習を進めること。 ・自由な発想をもち、自分の考えを表現すること。	・理科への興味・関心を深める。 ・生活の中で、理科の見方･考え方を働かせることを意識し、「なぜだろう」という考えをもち、その不思議を探求しようとする力。	・ただ「理科の学習」をするのではなく、生活の中にある「なぜだろう？」を解決していくような学習活動ができるように計画していく。覚える教科から、自ら問題を解決していく教科へ、意識が変わるようにする。
第六学年	・日常生活の中から様々な見方、考え方で理科的に事象を捉えていくこと。 ・目的意識をもって実験を行い、その結果をもとに自分の言葉で考察を書くこと。	・意欲的に取り組む姿勢の育成 ・自分の考えを表現する力	・生活の中で「なぜだろう」という見方をもち、見つけた不思議を問題に設定する。そして児童にどのような方法で確かめたらよいかを考えさせ、問題解決できるようにする。 ・観察、実験の結果をもとに、自分の考えを書き、妥当な結論を導くことができるよう指導を行う。 ・自らの経験をもとに、自分が分かる言葉で文章に表していく指導を行う。

令和５年度　　社会科　授業改善推進プラン

台東区立東浅草小学校

	児童の状況及び実態を踏まえた課題	特に育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む 指導方法・指導体制の工夫
第四学年	・４７都道府県の名称と位置を正しく覚えること。 ・学習したことを社会生活に生かそうとすること。 ・資料やグラフなどから、情報を正しく読み取って、自分の言葉でまとめること。	・学習したことを社会生活の中で活用する力 ・資料を使って必要な情報を調べ、まとめる力	・身近なものと関連付けて資料提示をすることで、児童が主体的に学習に取り組むことができるようにする。 ・学習して分かったことや考えたことを、絵や図を使ってまとめる時間を設定する。

第五学年	・資料を正しく読み取ること。 ・社会の学習に興味・関心をもち、自分の生活と関連付けて学習を進めること。	・課題に合った資料（グラフや表等）を選択し、必要な情報を正しく読み取る力 ・学習内容と自分の生活を結び付け、社会の見方・考え方を働かせる力	・始めは課題に合った資料を教師が提示し、学習を進めていく。段階的に児童が１人１台端末を使用して課題に合った資料を活用しながら、学習を進めていくように計画していく。 ・学習内容に興味・関心をもち、自分の生活との相違点を見つけ、意欲的に学習に取り組めるようにする。
第六学年	・主体的に、学習の問題を解決しようとする態度。 ・資料、グラフなどから、何が読み取れるかを判断したり、考えたりすること。 ・政治、社会の出来事などを身近なこととして考える力。	・主体的に問題を解決する力 ・学習内容と実社会を結び付ける、思考力、判断力、表現力	・資料提示や発問を工夫し、問いにつながる疑問を出させ課題を設定し、見通しをもって課題解決する学習をする。 ・学習内容と実社会との関わりを考える場面を設ける。 ・一事象が与える影響などを予想し、因果関係を捉えさせ実社会や自分とのつながりを考えさせる。